

梅雨の雨

季節の変わり目は、特徴ある現象がよく現れます。梅雨も季節の変わり目の現象であり、日本付近に寒気と暖気の境目（前線）が位置し、寒気と暖気の力が均衡しているため前線が同じ場所に位置（停滞）します。関東地方の平年の梅雨入りは6月8日頃、梅雨明けは7月21日頃となっており、約1か月半、雨の日が多くなります。

日立市の月別の降水量は9月、10月の秋のほうが多く、梅雨の時期が一番多いわけではありません。しかし、6月は「雨が降った日数」が一番多く、「晴れの日数」が一番少ない月となっています。つまり、降水量は多くはないですが、毎日のように曇りや雨の日が続くため、雨の季節との印象が強くなっています。

梅雨の時期の雨の降り方には大きく2種類あります。ひとつ目は「長く続く」雨です。梅雨前線が停滞している時に起きる現象で、梅雨の時期の代表的な雨の降り方です。1時間の降水量は数ミリから10数ミリと多くはありませんので通常は大雨とはなりません。2006年には3日間雨が降り続き160ミリを超える大雨となって久慈川が増水した時もありました。二つ目は「台風などの影響で短時間に強く降る」雨です。梅雨前線が停滞しているところに、台風からの湿った空気が届くことで起こり、台風が遠くにあっても注意が必要です。2007年には1時間に40ミリを超える雨を観測したこともあります。また、この2種類の雨が同時に起こることもあります。

大雨となると土砂災害や河川の増水など気象災害ももたらしかねませんが、逆に降水量が少

ないと夏の水不足の心配があります。この時期になると毎年、適度な降水量であることを願わずにはられません。

今年の夏の気候は

気象庁の長期予報によりますと、関東地方の気温は平年並みか高いと予想され、降水量はほぼ平年並みの見込みです。

平年の値（日立市役所）

| 項目 | 6月 | 7月 | 8月 |
|----------|-------|-------|-------|
| 平均気温（℃） | 19.2 | 23.0 | 24.9 |
| 降水量（mm） | 165.1 | 162.5 | 145.6 |
| 日照時間（時間） | 113.3 | 130.2 | 172.7 |
| 平均湿度（%） | 82 | 84 | 82 |

平年値（1981～2010年の30年間の平均）

【6月から8月の1953年からの極値の記録】

○最高気温

38.5℃（1997年7月5日
、1996年8月15日）

○日最大降水量

255.5mm（1966年6月28日）

○10分間降水量の最大

30.3mm（1968年6月29日15時9分）

○猛暑日（日最高気温35℃以上）最多の年

2002年の5日

過去の気象の特徴は月ごとにホームページに掲載しています。

生活安全課と共同運用の「日立市の防災と天気」Facebook ページと Twitter もご利用ください。

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。<http://www.jsdi.or.jp/~hctenso> 行政放送でも定期的に天気予報をお知らせしています。電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP 電話 050-5528-5066 へどうぞ。